

「消防団の力向上モデル事業」事業紹介

| | | | | | |
|------|--|-------------|--|------|--------|
| NO. | 112 | 地方公共 団体名 | 熊本県荒尾市 | 消防団名 | 荒尾市消防団 |
| 担当課 | 市民環境部 防災安全課 | 連絡先 | Tel 0968-63-1395 E-mail bouan@city.arao.lg.jp | | |
| 事業名 | コミュニティスクールと連携した消防団員等による防災啓発の推進事業 | | | | |
| 事業詳細 | <p>○ 事業の目的・必要性</p> <p>【目的】 小中学生や高校生に対する防災啓発に対し消防団員や防災士が支援することで、消防団員の増加や自主防災組織の活動活性化を図るとともに、未来の地域防災リーダーを育成することを目的とする。 また、消防団の応援する事業所等を募集し、消防団員の福利厚生を向上させ、団員の増加につなげることを目的とする。</p> <p>【必要性】 本市は、令和2年7月豪雨において大きな被害を受けており、次の災害に備え共助の促進を向上させることは喫緊の課題である。 地域防災の要である消防団員数は減少の一途をたどっており、災害時での活動が懸念されるところである。また、自主防災組織においては高齢化や役員の成り手不足などにより活動が停滞しており、共助での活動に不安が残るところである。 このような状況をふまえ、災害時の被害を少しでも軽減させるため、消防団員数を増やし地域防災力を強化するとともに、消防団や防災士等がコミュニティスクールをとおして学校とも連携し、地域が一体となって地域防災力の向上を図る必要がある。</p> <p>○ 事業内容</p> <p>【コミュニティスクールにおける活動への消防団等の支援事業】 小中学校等が行うコミュニティスクールにおいて実施する防災啓発活動や防災訓練に対し、消防団や自主防災組織等が協力して支援する。</p> <p>【消防団応援の店事業】 消防団を応援する店舗や事業所においてステッカーやのぼり旗を掲示し、各種サービスを消防団員に提供することで消防団員の福利厚生を向上させ、団員の増加を図る。</p> | | | | |



消防団員による令和 2 年
7 月豪雨の説明



消防団応援の店
(のぼり旗)



消防団応援の店
(ステッカー)

○ 目標達成状況

| 指標 | 単位 | 当初目標値 | 実績値 | 備考 |
|---------------|-----|-------|-------|--------------------------|
| 防災授業 | 回数 | 3 回 | 5 回 | ・コミュニティスクールにおける防災訓練の実施 |
| 訓練参加者 | 人数 | 500 人 | 940 人 | ・コミュニティスクールにおける防災訓練の参加人数 |
| 検討会・ 打ち合わせ | 回数 | 10 回 | 10 回 | |
| 防災啓発活動 | 回数 | 5 回 | 5 回 | ・消防団の広報や防災啓発の回数 |
| 応援の店 | 店舗数 | 30 店舗 | 15 店舗 | ・消防団を応援する店舗や事業所数 |

○ 事業成果

防災の授業に消防団員が入り、指導や説明を行ったことにより、将来消防団員になりたいという児童も現れるなど、児童と消防団員の距離感が縮まった。地域においても、小中学校を中心に消防団や防災士が防災活動を行ったことで、地域で連携して防災活動を行う体制が構築された。

また、消防団を応援しようとする事業所や店舗が市内全域に広がったことで、消防団員の福利厚生が向上し、消防団員としての満足度が上昇するとともに、消防団員として活動するモチベーションにもつながった。

今後は、消防団員が防災授業に参加する小中学校を増やし、より地域に根差した防災活動を行う必要がある。

また、消防団を応援する事業所や店舗等を増やし、さらに消防団の福利厚生を向上させることが求められる。

その他参考
情報

- http://
- 添付